長崎地本だより

発行所
自衛隊長崎地方協力本部
長崎市出島町２番25号
TEL 095-826-8844

長崎地本公式HP

長崎地本公式twitter

未来の陸上自衛官 スペシャリストを目指して！

～陸自高等工科学校生徒採用試験を実施～

長崎地本（本部長　西田洋一郎１海佐）は１月18日（土）、離島を含む県内10ケ所に試験会場を設けて、陸上自衛隊高等工科学校生徒（一般）採用第１次試験を実施しました。

募集定員約280名に対して、長崎県内からは139名が受験しました。

高等工科学校生徒は、15歳以上17歳未満の男子で、中学卒業者（見込みを含む）を対象に採用する制度で、学校は神奈川県横須賀市の陸自武山駐屯地に所在しています。

修業年限は３年で、普通科高校と同等の教育を行う一般教育、自衛隊の専門的な技術教育を行う「専門教育」、陸上自衛官として必要な防衛基礎学を主たる教育とし、陸上自衛官として将来活躍できる基礎を作ることを目的としています。

修業後は、陸曹候補生・陸士長に任官、共通・隊付教育を受けて３等陸曹に昇任し、部隊の中核として活躍しています。

第１次試験合格者は１月31日（金）～２月３日（月）の２次試験（面接・身体検査）を受験、２月14日（金）に最終合格者が発表されました。

長崎地本は、一般高校にはない魅力あふれる陸上自衛隊を高等工科学校で、歴史と伝統を受け継ぎながら、未来の陸上自衛隊を担う人材が、長崎県から１人でも多く輩出され活躍することを願って、募集広報活動に邁進していきます。

（募集課）

自衛隊合格者及び保護者に対し説明会を実施

長崎地本（本部長　西田洋一郎１海佐）は、１月19日（日）において、自衛官候補生の合格者及び保護者に対し説明会を実施しました。

説明会は自衛隊入隊に対する疑問や不安の解消を目的として実施しているものです。

自衛隊入隊に対し募集課長から本年度の任務の概要、自衛隊の任務の概要、自衛官としてのキャリアや処遇、福利厚生等に関する説明を実施しました。

説明会終了後は、陸海空別に参加者から懇談を設け、質疑に応答する形で行いました。

島原地域事務所からは、入隊後の体力測定法を展示し、入隊までに必要な体力づくりとともに、保護者には入隊に関してアドバイスを行いました。

また、説明会に参加した保護者に対し、説明会の準備についてのお礼や「勤務場所や転勤の頻度は？」や「訓練はきついのか？」など積極的に質問する参加者が最大で１８メートルある城壁を垂直に登り、石垣に生い茂った雑草を鎌などで取り除いていきました。

島原市長、島原市自衛隊家族会を中心とした島原半島の方々が見守る中、１１５名の隊員が城壁の清掃を兼ねた実施している訓練で、島原市の年末の風物詩となっています。

島原地域事務所（所長　有山泰斗３陸佐）は、12月18日（水）第16普通科連隊の島原城の城壁登坂訓練に併せて募集ブースを設置し、自衛隊をPRしました。

城壁登坂訓練は自衛隊の民生協力の一環で、昭和52年から島原城の城壁清掃を兼ねた実施している訓練で、島原市の協力団体の方をはじめ多くの客を含め１６０人が訪れ、ロープを１本で巧みに身体を支えつつ、驚嘆の声が上がっていました。

また、募集ブースでは自衛隊の活動の様子を撮ったパネル展示やミニ制服の試着コーナーを設けるとともに16普連の展示支援を受け、車両装備品の展示を実施しました。

そこでも熱心な表情でパネルを見入る姿や、ミニ制服の試着コーナーでは訓練する隊員と同じ迷彩服に人気が集まり、それを試着し、各々のポーズで写真に納まる様子が見られました。

そして、訓練の合間には島原半島防衛恒例の「豚汁」が隊員に振る舞われ、訓練で冷えきった隊員の身体を温め、訓練終了時には一同、清々しい気持ちとみなり。

島原地域事務所は、昭和の時代から続くこの訓練が50回、１００回と続くものになるように、令和の時代もしっかりと自衛隊と地域住民との懸け橋になり募集広報活動に邁進していきます。

（島原地域事務所）

島原のランドマークで自衛隊をＰＲ

など、高い関心を寄せられていました。

長崎地本は本説明会を通じて、合格者及び保護者の皆様に十分ご安心いただき、４月の入隊につなげるとともに引き続き、防衛省自衛隊にご理解とご協力を得るべく精進してまいります。

（募集課）

海自入隊予定者に対し部隊研修を実施

長崎地本（本部長　西田洋一郎1海佐）は、1月10日（金）佐世保市において、護衛艦「あけぼの」一体験航海と佐世保教育隊研修に入隊予定者とともに参加しました。

この行事は、海上自衛隊入隊予定の高校生等に対し隊員になる不安の解消や職種等に関する理解の向上及び教育隊での生活をイメージしてもらうことを目的として実施したものです。

護衛艦での約2時間の体験航海では、主砲や機関砲の操法展示やラッパ吹奏展示、音楽隊隊員によるミニコンサートなどが実施されました。

案内についた艦艇乗員からは、艦内を移動する上での注意事項や様々な機器、艦内での生活について丁寧な説明がありました。

教育隊では体験喫食に続き概要説明があり、入隊までの準備や入隊後の教育・訓練内容、日常生活などについての理解を深めた後、体育館、カッターダビットなどの訓練施設や隊舎の見学が実施されました。

参加者からは「護衛艦に乗りたい。職種は今後考えたい」「教育隊での訓練についていけるよう体力をつけておきたい」などの声が聞かれ、入隊意欲が向上したようでした。

長崎地本は、今後も合格者に自衛隊を理解してもらい、一人でも多くの優秀な人材に入隊を選んでもらえるよう努めます。

（募集課）

寄稿

部隊研修に参加して

菱計装株式会社　漆畑　敬一

12月4日（水）5日（木）の2日間、航空自衛隊春日基地及び陸上自衛隊目達原駐屯地の部隊研修に参加させていただきました。

この研修は就職援護状況の部隊員との交流を通じてほかの部隊員の生の声を聴くことができる、大変貴重な機会でした。

最初に訪れた春日基地の西部防空管制群では、日頃見ることができない防空管制の状況を見学することができました。

次に訪れた目達原駐屯地では、隊員の方々と昼食を共にし、懇談する機会を得ました。隊員の方の印象として、若いながらも、物言い、所作など自律した人間性を感じとれました。

目達原駐屯地で隊員の前で自己紹介する筆者

近年増加している領空侵犯など緊張が絶えない任務の対処など、1年365日24時間絶え間なく従事している自衛官の姿を目の当たりにして、今あるこの平和が隊員の方々のおかげであることを痛感しました。

やはり、部隊での共同生活、教育、任務が自律した人間を育てるのだと思いました。

当社では援護支援で入社した元自衛官の社員がいますが、皆に共通していえることは「規律」、「礼儀」、「責任感」が他の社員と比べて秀でているということです。

会社としても、就職援護を希望する隊員に対して将来の就職に不安を抱かせず任務遂行ができる一助となれば幸いであると考えています。

今、日本を取り巻く国際情勢は年々厳しくなってきており、国難といってもよい状況になってきていると感じる中、この日本を守るために奮闘される自衛隊の隊員の皆様の就職援護に少しでも寄与できればと思います。

最後に、このような機会を設けていただいた援護課の皆様、見学で我々の対応された隊員の皆様に感謝いたします。

写真右から２番目が筆者

県内イベント情報

令和2年4月開催分

4月4日（土）・5日（日）
艦艇一般公開　掃海艇たかしま
（雲仙市小浜町）

4月18日（土）
大村駐屯地創立記念行事
（大村市）

4月26日（日）
相浦駐屯地創立記念行事
（佐世保市）

状況によってはイベントの延期または中止になる場合があります。

お知り合いに興味のある方いませんか？

自衛官採用 32歳まで

「守りたい。その決断は遅くない！」

自衛隊長崎地方協力本部

（長崎市出島町2-25）095-826-8845